

平 標 山 ～ 三 国 山 山 行 記 録



大源太山への稜線

平標山から谷川岳への縦走路（大源太山より）

目的地	平標山～三国山	期 日	平成21年3月21日（土）・終日快晴
山人	笠原正雄・伴場ちづ子	特 記	もう一度平標山、ヤカイ沢左岸尾根を登る。更に三国山へ県境稜線縦走。

地点名	時刻	記 事
与板発	午前4:55	長岡IC～湯沢IC。霧も無く走り易い。石内丸山スキー場の下部は前面が土。
三 国 小 学 校 脇	6:30	町営 P はまだ雪の下。数台。歩き出す者あり。朝食弁当を食べながらBを待つ。ご主人も一緒に来た。彼はスキーへ行く。当初予定では三角山から天丸木山へ下り、別荘地へ降りるつもりだったが、迎えを頼んで三国峠下山に変更する。
歩 き 出 し	7:15	若者隊と前後して林道を壺足で進み、ヤカイ沢出合から少し先で左折する。沢に入るとすぐに幕営1張男2人がいた。昨日は雨から小雪だったと言う。雪は固い。
尾根取り付きへ	7:50	スキー隊は直進しているが、鉄塔が右後下に見える所から右へ登り始める。重登山靴でのキックステップ登高となる。固い雪面でステップもやや浅い。
やや広い尾根	8:10	鉄塔から標高で約100m上の尾根に上がる。別ルートからのトレースと合流。
ヤブコギ途中	8:30	風で寒くなりベストを着る。時折、藪を抜け出し雪庇の縁を進む。振返れば、河内沢対岸の尾根を見渡せ、送電線巡視路と思われるが、かなり上まで続いている。
大 木 林 間	8:50	藪が薄くなり、大木の疎林を登る。気分良く登るうち、クラストが強くなる。
アイゼンを履く	9:00	クラスト面がテカッテ来た。標高1500m付近と思われる。
フリース着用	9:45	風が更に冷たくなり、標高1750m付近でフリースを着る。山スキー2人と会う。
県境稜線に上る	10:05	シュカブラと締めり雪の斜面を、アイゼンを利かせてジグザグに登高する。幾人かの山スキーヤーも登っている。稜線に上れば更に風が強い。日焼け止めを塗り、帽子の耳当てをおろす。山の家方面から来る者も居た。仙ノ倉へ向かう者数人。
平 標 山 頂	10:25～10:30	今日も良く見える。風寒く、山を一通り眺め、写真を撮って数分滞在で下りる。
平 標 山 の 家 ランチタイム	11:00～12:05	冬季入口の矢印は南入口を指している。金属梯子は上2段が露出しているため2階窓から入ってみた。しかし、窓を雪が塞いでいるため真暗だ。入口下の窪地に10分掛けてピッケルでベンチテーブルを作る。過ぎすうちに風が止み、暖かく穏やかになった。フリースを脱ぎ壺足で先へ向かう。昨日の物らしい踏み跡あり。
雪割れに嵌る	12:10	注意しながら進むが、腰深さまで落ちた。ズボンのポケットに雪が入った。
ベストを脱ぐ	12:45	登りにかかるが、暑くなった。苗場スキー場のアナウンスが聞える。
左 折	12:55	縦走路をそれて左折し、頂を踏みに行く。
大 源 太 山 頂	午後 1:10～1:20	谷川岳縦走路の好展望地。エビス大黒ノ頭、万太郎山、そしてその先にオキノ耳・トマノ耳と見える。今回山行の一つの目的でもあるポイント、絶景で穏やかで、全くここで昼寝でもしていたいくらいだ。昨日らしい踏み跡が更に続く。
三 角 山	1:35	それ程張り出していない雪庇尾根の樹林との境目を進む。頂手前が割れているため、西側の林に逃げ、藪を漕いで頂に登る。浅貝との三叉道標が出ていた。
標 高 点 1 5 9 7	2:30～2:40	露出尾根を進むが、雪庇の状況により時々藪に逃げる。随時たどって来た道を振返る。鞍部から標高差100mを登り返してここへ。浅貝が良く見下ろせる。少し食べて出発。この先、本日の往復壺足トレースが加わった。所々抜かっている。
三 国 山	2:55	三角点までは行かず、手前で露出した木製階段を下る。途中から階段を中途半端に雪が覆ってくる。コースを外れて雪の上を下る。
三 国 峠	3:15	群馬側にトレースは無い。稲包山へ向かうスノーシュー跡が刻まれていた。
三国トンネル出口	3:40	ご主人が待っていてくれた。前行者の物か、朝からと云う車一台が残っている。
帰 宅	6:05	出発地点まで連れて来てもらい2人と別れる。街道の湯入浴後帰宅。

16日前にも平標山に登った。その際この尾根を登るつもりだったが、あまりにも立派な踏み跡に惑わされて、ほぼ夏道に沿う上山となった。雪も少なくなったが、こちらの方の藪が少し厚かった。しかし全体斜度はこちらの方が緩い。

4年前の初秋に歩いた谷川岳からの縦走路を一望出来、この日だけの上天気を逃すことなく入山出来て、大満足である。その上、伴場さんのご主人の迎いで、当初計画よりも素晴らしいルートで県境稜線を満喫出来た。